

高等学校数学解答用紙 (解答例)

その1

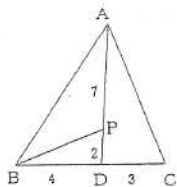
[1]

(1) [求め方]

$-2\vec{AP} + 3(\vec{AB} - \vec{AP}) + 4(\vec{AC} - \vec{AP}) = \vec{0}$ なので、

$$\vec{AP} = \frac{3\vec{AB} + 4\vec{AC}}{9} = \frac{7}{9} \cdot \frac{3\vec{AB} + 4\vec{AC}}{7}$$

と表せる。
ここで $\vec{AD} = \frac{3\vec{AB} + 4\vec{AC}}{7}$ とおくと、



点Dは辺BCを4:3に内分する点であり、点Pは線分ADを7:2に内分する点である。

$$\text{よって、} S_1 = \frac{2}{9} \Delta ABD = \frac{2}{9} \left(\frac{4}{7} \Delta ABC \right) = \frac{8}{63} S_2$$

である。したがって、 $\frac{S_1}{S_2} = \frac{8}{63}$

答 $\frac{S_1}{S_2} = \frac{8}{63}$

(2) [求め方]

与式に $n=1$ を代入し、 $a_1 = \frac{1}{2} \left(a_1 + \frac{1}{a_1} \right)$

$$a_1^2 - 1 = 0, a_1 > 0 \text{ より } a_1 = 1$$

また、 $a_1 + a_2 = \frac{1}{2} \left(a_2 + \frac{1}{a_2} \right)$ より、

$$a_2^2 + 2a_2 - 1 = 0, a_2 > 0 \text{ ゆえに } a_2 = \sqrt{2} - 1$$

$a_1 + a_2 + a_3 = \frac{1}{2} \left(a_3 + \frac{1}{a_3} \right)$ より、

$$a_3^2 + 2\sqrt{2}a_3 - 1 = 0, a_3 > 0 \text{ ゆえに } a_3 = \sqrt{3} - \sqrt{2}$$

以上から、 $a_n = \sqrt{n} - \sqrt{n-1} \dots \textcircled{1}$ と推定できる。

$n=1$ のとき、 $\textcircled{1}$ は成り立つ。

$a_k = \sqrt{k} - \sqrt{k-1}$ を仮定すると、

$$\begin{aligned} a_{k+1} &= \frac{1}{2} \left(a_{k+1} + \frac{1}{a_{k+1}} \right) - \frac{1}{2} \left(a_k + \frac{1}{a_k} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(a_{k+1} + \frac{1}{a_{k+1}} \right) - \frac{1}{2} \left(\sqrt{k} - \sqrt{k-1} + \frac{1}{\sqrt{k} - \sqrt{k-1}} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(a_{k+1} + \frac{1}{a_{k+1}} \right) - \sqrt{k} \end{aligned}$$

よって、 $a_{k+1}^2 + 2\sqrt{k}a_{k+1} - 1 = 0$

$a_{k+1} > 0$ より、 $a_{k+1} = \sqrt{k+1} - \sqrt{k}$ となり、

$n=k+1$ のときも $\textcircled{1}$ は成り立つ。

以上から、すべての自然数 n について、 $\textcircled{1}$ は成り立つ。

答 $a_n = \sqrt{n} - \sqrt{n-1} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$

(3)

① [求め方]

4人の手の出し方は 3^4 通りある。同じ手は何人いて「あいこ」になったかで場合分けして考える。

ア 4人とも同じ手を出す場合 3通り

イ 2人が同じ手を出す場合

同じ手を出す2人の選び方が ${}_4C_2$ 通り

その2人がどの手を出すかが3通り

残りの2人の手の出し方が2通り

よって、 ${}_4C_2 \times 3 \times 2 = 36$ 通り

したがって、求める確率は、 $\frac{3+36}{3^4} = \frac{13}{27}$

答 $\frac{13}{27}$

② [求め方]

1回目があいこで、2回目に1人が勝つ確率は、

$$\frac{13}{27} \cdot \frac{{}_4C_1 \cdot 3}{3^4} = \frac{52}{729}$$

1回目で3人が勝ち残り、2回目に1人が勝つ確率は、

$$\frac{{}_4C_3 \cdot 3 \cdot {}_3C_1 \cdot 3}{3^4 \cdot 3^3} = \frac{36}{729}$$

1回目で2人が勝ち残り、2回目に1人が勝つ確率は、

$$\frac{{}_4C_2 \cdot 3 \cdot {}_3C_1 \cdot 3}{3^4 \cdot 3^2} = \frac{108}{729}$$

これらは互いに排反であるから、求める確率は、

$$\frac{52}{729} + \frac{36}{729} + \frac{108}{729} = \frac{196}{729}$$

答 $\frac{196}{729}$

(4)

① [証明]

$\angle OAD = \angle OBD = 90^\circ$ より、四角形OABDは線分ODを直径とする円に内接している。

したがって、同じ弧に対する円周角は等しいから、

$\angle ODA = \angle OBA$ である。

② [証明]

①と同様にして、 $\angle OAE = \angle OCE = 90^\circ$ より、

四角形OCEAは線分OEを直径とする円に内接し、

$\angle OEA = \angle OCB \dots \textcircled{ア}$ である。

また、 $OB = OC$ より、 $\angle OBC = \angle OCB \dots \textcircled{イ}$

①、 $\textcircled{ア}$ 及び $\textcircled{イ}$ より、 $\angle ODA = \angle OEA$ となり、

$OD = OE$ である。